



田中英行

### 図書館建設について

**田中** 現在の新図書館建設の計画をどのようにつけていくのか。

**教育長** 市議会の御理解を得て、2019年度中には設計業務に着手し、2022年度中には新館をオープン、供用開始できればと考えています。

**田中** 新図書館建設計画の中で財源をどうするののか。

**教育長** 図書館建設に係る財源としては、過疎対策事業債を活用する予定です。過疎対策事業債は元利償還金の70%が普通交付税の基準財政需要額に算入されますので、市の実質負担は事業費の3割程度になる見込みです。

**田中** 新図書館建設について、機運を高めるためにどのような施策を考えているのか。

**教育長** 今後、図書館建設を進めるに当たり、図書館整備の早期実現に



平間智治

### 児童虐待について

**平間** 学校・教育委員会の児童虐待防止対策の取り組みは。

**答弁** 小さな変化に気づく心、子どもや保護者とのきずなをつなぐ教職員の育成、職員会議や様々な協議会で共通理解を図り、早期発見・対応については、職員による観察、面談を行っています。

また、4年生、7年生を対象に自分を守るための人権教育プログラム「CAP」を行っています。

**平間** 警察・学校・保育所・病院等関係機関との連携強化の取り組みは。

**答弁** 多久市要保護児童対策地域協議会(児童相談所、保健福祉事務所、小城警察署、多久市医師会、市内義務教育学校、保育園、認定こども園、民生児童委員、PTA連合会、



ついでに市議会の御理解、連携により進めることが重要であると考えています。

また、市民、利用者の方々に広く新図書館整備の内容をお知らせし、市民や専門家の方々など、多くの皆様から御意見をいただきながら、市民の皆様の応援のもと事業に取り組んでいくことが肝要と思っております。



### 【その他の質問】

▼現在の市内公共施設について  
緊急に修繕や補修を必要としている施設、危険性のある施設、また、改修をしなければならぬ施設があるが、地域の要望対応状況についてはどうなっているのか。

健康推進委員会を設置しています。

虐待を疑われる事案が発生した場合は、情報収集し、必要に応じて実務者レベルで集まってケース会議を開催し急ぎ対応しています。

**平間** 子ども家庭総合支援拠点の設置促進等による相談支援体制・専門性の強化はできないか。

**答弁** 要保護児童対策地域協議会を中心に関係機関と情報共有を図り、ネットワークを生かして必要な支援を行っていききたいと思っております。

**平間** 子育て世代包括支援センター(日本版ネウボラ)の設置推進はできないか。

**答弁** 平成31年度から福祉課・健康増進課に子育て世代包括支援センターを設置します。



中島慶子

### ふるさと振興基金について

**中島** 制度の目的は。

**答弁** 寄附金を活用した事業や市内の団体、個人が行う地域づくり活動への支援事業の財源とするために積み立てて活用しています。地域づくり活動の経費対象は、講師謝礼金や会場使用料、印刷製本費、交通費、消耗品費などで、申請者負担額の2分の1以内としています。助成対象の活動内容や規模により限度額を設けています。

**中島** 本事業の周知は。

**答弁** 毎年4月の嘱託員会で詳しく説明を行い、ホームページやスポーツ関係団体等へも情報提供を行っています。

**中島** 生涯学習活動やスポーツ振興に対して活用はできないか。

**答弁** 人材育成、伝承行事、伝承芸能、地域づくりの活性化に属する活動に含まれていると考えられ、民謡



田渕厚

### 義務教育学校について

**田渕** 小中一貫校になってから、現在までの児童生徒の学習意欲は向上しているのか。

**答弁** 授業が楽しい、よくわかるというのが学習意欲の裏返しであり、学習意欲は向上しています。

**田渕** 小中一貫校、義務教育学校になつてから教職員の業務量は増えたか、また、仕事の内容は複雑化していないか。

**答弁** 小学校、中学校にはそれぞれ校務分掌があり、それを一つの学校にしたことで業務量は複雑化していません。ただ、教職員の仕事は多岐にわたっており、その業務が先生方の業務量の増大につながっているのが、教育委員会が多忙化対策委員会を立ち上げ、その対策に乗り出しています。

**田渕** 義務教育学校は学力が上がると聞けが、多久市の義務教育学校

大会の開催や出場に対する助成実績があります。スポーツ分野は人材育成の区分に含まれ、助成件数の半数近くを占めています。交付要綱に合致した内容であれば、可能な限り支援をしていきたいと考えています。



### 民営路線バス運行の見直しについて

**中島** 佐賀市、神崎市がバス会社へ運行継続などの要望書を提出されたが、多久市はどう進めるのか。

**答弁** 今後の協議過程において、昭和バス提示の2019年10月1日までに十分な協議や対応が調わない場合については、武雄市、県とも協議をして要望書の提出を考えたいと思います。

3校の学力テストは、全国の学力と比べて実態はどうなっているのか。

**答弁** 点数については、教育委員会は公表しておりません。県との比較分析は行っています。この調査は県で2回行われていて、4月の調査で課題を見つけ、12月の調査で課題を克服しています。

**田渕** 先生の乗り入れ授業は先生が多忙の中、なかなか厳しい状況と聞けが現状は。

**答弁** 乗り入れ授業をする場合、中学校の先生の数が前提になります。教職員の定数は国で決められますので、毎年度乗り入れ授業の科目等の調節が必要ですが、各学校創意工夫で対処しています。

